様式２

令和5年度　調布市立石原小学校　学校評価報告書（学校長　飯島　慶裕）

学校の教育目標
○　根気よく学ぶ子　　○　なかよく助け合う子　　○　明るく元気な子
目指す学校像（ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像
☆　子供たちの笑顔あふれる学校 （１）お互いを尊重し合いながら学ぶ学校→認められる笑顔 （２）教職員にとって，自信と誇りをもってやりがいの感じられる学校→やる気の笑顔 （３）保護者や地域とともに歩む学校→誇れる笑顔

調布市立学校における共通した領域　＜短期的な経営目標＞

	1　豊かな心（徳）		2　確かな学力（知）		3　健やかな体（体）	
自己評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価
	①　相手の気持ちを考えることを意識させ，いじめの防止並びに早期発見・早期解決する。	A	①　「めあて」「ふりかえり」「まとめ」を明示し，児童が見通しをもって学習できる指導を展開する。	A	①　縄跳び，持久走，体育の授業を通し，日常的な運動の取組を行う。	B
	②　あいさつを励行し，先言後礼を定着させる。	B	②　全教科において，児童が自ら考え，表現する場面を意図的に設定する。	B	②　避難訓練・セーフティ教室等を通して，安全意識を高める。	A
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価
	①　いじめを発見した場合，１か月以内で解決した。	A	①　魅力ある学校づくりのアンケートで「授業がよくわかる」の割合は横ばいであった。	A	①　児童アンケートによる肯定的な評価は７７％であった。	C
	②　児童及び保護者アンケートによる肯定的な評価は８６％であった。	B	②　児童アンケートによる肯定的な評価は８２％であった。	B	②　避難訓練では，意識をもって行動することができるようになった。	A
学校関係者評価	・　いじめに対して重要課題と捉え，取り組んでいるのが強く感じる。 ・　いじめを起こした側の心のケアや隠れたいじめがないか，慎重に注意深く児童を見つめる必要がある。 ・　以前より挨拶をする児童が少なくなったように感じる。定着できるよう，協力したい。		・　各授業において，教職員の工夫や取組が見られた。 ・　落ち着いて話を聞いている様子は分かるが，理解しているかどうかまでは分からない。 ・　「学ぶことは楽しい」と興味をもち，どんな分野，どんな些細なことでも知ることは楽しく，そこから広がっていく楽しさや世界を感じる子が育ってほしい。		・　体力の低下は，コロナの影響が大きかったと思う。児童一人一人が，年度はじめに自分の現状を確認し，１年間の中で目標をもち，少しでも体力が向上したらいいと思う。 ・　健やかな体づくりには，食事が欠かせない。毎日朝食をとらない子が１１%いるのは，家庭の事情だと思うが，改善策を検討する必要がある。	

学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞

	4		5		6	
自己評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価	(1)　具体的な取組	評価
	①　授業における資料提示等を含め，タブレットＰＣを積極的に活用する。	B	①　調布特別支援学校との交流活動を行う。	B	①　地域学習・校外学習・ゲストティーチャーを招いた授業を積極的に行う。	
	②　児童用タブレットを活用し，児童が主体的に課題解決に取り組む。	B	②　スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等の助言を受けながら，個に応じた指導を行う。	B	②　調布学年と情報交換を密に行い，連携しながら児童の育成を図る。	
	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価	(2)　成果（数値目標に対して）	評価
	①　学習での使用頻度にばらつきがあった。	B	①　３年生の直接交流は１回にとどまった。さらなる交流の機会を増やす必要がある。	B	①　地域学校協働本部と連携して九九クリニックを行った。	
	②　児童アンケートによる肯定的な評価は８４％であった。	B	②　個別指導を受ける児童は，自己肯定感を高めつつある。	B	②　児童養護施設との全体交流会を２回，施設長とは電話連絡や直接話をして共通理解のもと，対応した。	
学校関係者評価	・　タブレットの活用は，学級によってばらつきがある。 ・　タブレットの使い方について，先生同士で研修することも大切である。 ・　タブレットに頼りすぎて，字の習熟がおろそかにならないよう，漢字の読み書きを大切にしてほしい。 ・　保護者アンケートで，タブレットを家庭で時間を設けずに使わせてほしいとの意見があったが，学校で支給するものに関しては変更する必要はない。学習に使いたいのであれば，家庭のものを使用すればいい。また，タブレットでゲームをして困るというのは，まさに家庭のルールの問題である。学校支給のタブレットがあるからではない。		・　2のように，個々を大切にする場を設定してほしい。 ・　個別指導を受ける児童の自己肯定感が高くなるのは良いことである。きちんと先生が見て，話しかけて褒めているからだと思う。しかし，児童アンケートでは，自己肯定感の低い児童が一定数いるので，原因を把握し，対応していくことが必要である。		・　地域と連携した九九クリニックは，とても良い取組であり，子供たちにも良い影響があると感じられた。 ・　効果が必ず出るので，今後も地域と連携して取り組んでほしい。 ・　具体的取組として，学校の特色が出ている。特に，地域学校協働本部が動き出したことが評価できる。引き続き，取り組んでほしい。	

人材育成・組織運営	
自己評価	・　いじめ防止対策委員会を定期的に行い，組織として早期に対応し，解決につながった。 ・　特活部，研究部，各行事の委員長となった主任教諭は，主任としての役割を担う意識は高まった ・　校内 OJT・ミニ研修(15 分間)を８回行ことで，若手教員の育成だけでなく，中堅教員の意識向上につながった。
学校関係者評価	・　いじめ防止に尽力していることがとても良い。 ・　とても大変なコロナ禍を乗り越えてきたこと，先生方には感謝している。 ・　地域と学校が協力している姿，信頼しあっている姿をもっと子供たちに感じてもらえるよう，お互いに協力し合えることを切に願う。 ・　「教育目標や学校経営計画の経営目標を方策について理解し，達成するよう努力した」における教職員の自己評価が，低い値となっている。教育課程に則った意図的・計画的な教育活動の値も低い。教職員が，しっかり経営方針に沿った教育活動をすべきである。

中期的な経営目標の達成状況

1　全教育活動を通して，児童一人一人の人権感覚を高める。
　→　アンケートで，９１％の児童は学校で友達と仲良く生活していると回答しているが，保護者アンケートでは，８２％であった。

2　児童の学習意欲の向上を図り，基礎的・基本的な学力を定着させるとともに，思考力・判断力・表現力の向上のために，指導法の工夫改善を行うために，計画的な教育活動を推進する。
　→　９６％の児童は，先生や友達の話をしっかり聞いていると回答しているが，自分の考えをすすんで発言していると回答した児童は，５６％であった。「主体的・対話的で深い学び」を柱に，対話的活動を充実させながら，表現する力を付ける必要がある。また，基礎的・基本的な学力の定着も課題である。

3　児童自ら健康で安全に生活する力を育むために，学校・家庭・地域が連携して，交通事故，熱中症，防災（地震，風水害），不審者等に対する体制を推進する。
　→　全国体力テストの結果では，全国平均を上回っている。保護者アンケートでは，すすんで運動をしているという回答は６５％であった。児童の運動に対する興味関心を高める必要がある。

4　ＩＣＴ機器を積極的に活用した授業改善を行うとともに，情報モラル教育を推進する。
　→　アンケートで，８４％の児童は，児童用タブレットを使った学習は楽しいと回答している。保護者アンケートでは，２０％の保護者が児童用タブレットのルールやマナーを守っていないと回答しているので，情報モラル教育のさらなる推進画筆硫黄である。

5　関係諸機関と連携しながら，児童一人一人の課題に柔軟に対応し，育成を図る。
　→　適宜関係諸機関と情報共有し，連携しながら対応している。

6　地域学校協働本部を活用し，保護者・地域と連携し，地域に根差した教育活動を推進する。
　→　地域学校協働本部が主体となり，２年生で「九九クリニック」（九九の習熟）を行い，基礎的な学力の向上を図っている。

次年度の重点課題

・　朝学習の時間を活用し，基礎的・基本的な学力の定着を図る必要がある。
・　コミュニティ・スクールを導入し，地域学習を充実させ，児童の主体性を育む必要がある。
・　高学年において教科担任制を導入し，教員の専門性向上を図るとともに，多面的な児童理解につなげる必要がある。
・　コミュニケーションの基本となる挨拶について，継続して取り組む必要がある。
・　児童用タブレット端末の活用方法等について，継続して児童・保護者へ周知していく必要がある。